

令和元年度第7回社会教育委員の会議

令和2年1月27日(月)

午前9時30分開会

開催日時	令和2年1月27日	開会 9時30分 閉会 11時15分	
場 所	小金井市役所第二庁舎8階801会議室		
出席委員	議 長 原田 隆司 副 議 長 柴田彩千子 委 員 所 夏目 委 員 富田謙次郎 委 員 城 瑞枝	委 員 諏訪 啓二郎 委 員 福井 高雄 委 員 森本 榮子	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 藤本 裕 生涯学習課長 関 次郎 生涯学習部オリンピック・パラリンピック兼スポーツ振興担当課長 内田 雄介	図書館長 菊池 幸子 公民館長 林 文男	
事務局	生涯学習係長 小堀久美子 生涯学習係主任 鈴木 政博		
傍聴者人数	2名		

日程	議 題	
第1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 会議録の承認について</li> <li>(2) 令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会について</li> <li>(3) 第4次生涯学習推進計画の策定について</li> <li>(4) 令和2年度管外視察研修について</li> <li>(5) 成年年齢引き下げに伴う成人の日記念行事について</li> <li>(6) その他</li> </ul>
第2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 第50回関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会について</li> <li>(2) 令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会について</li> <li>(3) 令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会他ブロック（第2・第4ブロック）研修会について</li> <li>(4) 令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について</li> <li>(5) 東京2020オリンピック聖火リレーについて</li> <li>(6) その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>①2019「青少年のための科学の祭典」東京大会 in 小金井</li> <li>②その他</li> </ul> </li> </ul>

原田議長

おはようございます。よろしくお願いいたします。

時間になりましたので、始めさせていただきます。

今日は長坂委員と石原委員からご欠席の連絡があつて。森本委員がまだお見えになっていませんが、時間ですので、始めさせていただきます。

それでは、最初に資料の確認を事務局のほうからお願いいたします。

小堀生涯学習係長 おはようございます。資料の確認をさせていただきます。

令和2年度第7回社会教育委員の会議次第。

第4回、第5回の会議録。

資料1、令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会について。

資料2、第4次生涯学習推進計画について。

資料3、令和2年度管外視察研修について。

資料4、成年年齢引き下げに伴う成人の日記念行事について。

資料5、報告書、第50回関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会について。

資料6、報告書、令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会。

資料7、報告書、令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会。裏面に第2ブロック研修会がついています。

資料8、報告書、令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会。

資料9、東京2020オリンピック聖火リレーについて。

最後、資料ナンバーはないですけれども、報告書、2019「青少年のための科学の祭典」。

ここからは委員の方だけの配付となりまして、社教情報ナンバー81。社連教会報ナンバー85。とうきょうの地域教育ナンバー138。図書館だより第55号。月刊こうみんかんナンバー501、502。花みずき。かたらい50号。体協だより63号。2019「青少年のための科学の祭典」東京大会 in 小金井市の報告書。

以上になります。

原田議長

ありがとうございました。たくさんありますが、何か漏れている

ものがありましたら、どうぞお申し出ください。よろしいですね。

それでは、早速、議題1から始めたいと思います。

議題1は、会議録の承認についてということで、お手元の資料に令和元年度第5回の会議と第4回の会議。第4回は前期の前委員のメンバーでの会議でございます。

この2つがついておりますが、既にメールでもって各委員のところには内容が届いておりまして、訂正箇所についてはやりとりしていただいたと思います。

そのほかに何かまたありましたら、この場を出していただけますでしょうか。

既にやりとりしていただいたものが反映された形になっております。

よろしいでしょうか。

諏訪委員 1個質問ですが。

原田議長 どうぞ。

諏訪委員 これは議事録としては、記録としてはいいでしょうけれども、ホームページに載せるんですか。

原田議長 事務局、この会議録は載っていますね。

小堀生涯学習係長 はい、ホームページに載っています。

諏訪委員 ホームページでは記録として載せるんですか。

小堀生涯学習係長 会議録という形で載せます。

諏訪委員 載せる趣旨は記録としてですか。それともPRのためですか。

小堀生涯学習係長 記録として載せています。

諏訪委員 全文これを出して、一体どれだけ読まれるのかという。



で要点にするかと決めれば、要点で載ることになりますしという整理になるわけです。

なので、やはりそこでの最初の決め方というところになると思います。

実際には、事務局のほうとしては、その会議録というのは録音していますので、全文はとってありますけれども、そこを選んでいただくのはやはりこの会議の中で選んでいただいてという形になります。

諏訪委員           わかりました。

原田議長           この件に関しては、皆様、何かご意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、要約せずに全文を記録として使い、また、ホームページで公開するというごことをお願いしたいと思います。

それでは、次の2番にまいります。

令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会についてということで、小堀さん、まず、資料の説明をお願いいたします。

小堀生涯学習係長   では、資料1をごらんいただきまして、タイトルは、令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会についてとなっております。

こちらの第5ブロック研修会につきましては、武蔵野、三鷹、調布、府中、小金井、狛江の6市が第5ブロックになっておりまして、幹事市が1年ごとに交代します。今年度は調布市が幹事市をしておりますが、令和2年度は小金井市が幹事市になる予定です。

例年10月から11月ぐらいに研修会を行いますが、来年といっても、すでに1年切っておりまして、準備を少しずつ進めていきたいということで議案にさせていただいております。資料に過去5年間の研修会の内容を載せたものを用意しております。

幹事市となった市に新しい施設ができた場合などは、その施設を見学しているということもありますし、昨年度は府中市さんが府中囃子の実演を行ってございましたし、他にも、今年度は市民参加劇で不登校を考えるという形もありました。27年度の狛江市さんは、

中学生の居場所についての事例発表をして、グループ討議をして講評というやり方でした。それぞれの幹事となった市で自由にテーマを決めて研修会を行っています。

6年に1回ですので、平成26年度には小金井市が幹事市になっておりまして、そのときの研修会については、その時いた委員の方もいらっしゃらないですし、私も担当はしていなかったんですけども、記録によると、テーマは「NPO法人など市民主体の組織がこれからの社会教育に貢献できる可能性について」となっております。

ちょうど貫井北センターが設立された時で、貫井北センター設立までの事例発表と施設の見学、グループ討議と講評を行っております。

場所は貫井北センターで、時間は午後2時から4時半まで。場所を移して、小金井市商工会館2階で懇親会を行っているということです。

令和2年度についてなんですけれども、こちらの都市社連協全体のテーマというのは、今度の理事会を通して、また最終的には総会で決まるような形になるかと思いますが、そのテーマに基づき、第5グループとしてもテーマを決めて研修会を行うこととなります。それなりに広い場所が必要になるので、今のところ、議長、副議長の予定を確認した上で、令和2年11月7日土曜日の午後に萌え木ホールを確保しております。

これについて、今日、全部決めなければいけないということではないんですけれども、こういったものがあるということを頭に入れていただいた上で検討していただければと思います。お願いします。

原田議長

ありがとうございました。

まだ時間があるとはいえ、少し皆様のアイデアがありましたら、この場でも出し合いたいと思っています。

今のご報告によりますと、都市社連の総会で全体テーマがまず決まるんですね。それがいつも4月の末ぐらいでしたっけ。

小堀生涯学習係長 そうですね。第3土曜日です。

原田議長

そうですね。そうすると、では、何をやるにしても、テーマにつ

いてはその都市社連の総会で決まったテーマに沿ったものということでもよろしいでしょうか。

小堀生涯学習係長 そうですね。ただ、都市社連協のテーマもすごく絞り込んだテーマになることはないかと思しますので、ある程度は、それ以前に決めていっても大丈夫かと思えます。

原田議長

融通が効くということですね。わかりました。

スケジュール的にはそういうことですね。

ごらんいただくとわかると思うんですが、内容としては、3つぐらいのパターンですね。

1つは、あるテーマについて各市から事例発表をして、それをもとにグループ討議をするというのが1つ。

それから、もう1つは、講演会。その年のテーマに沿った講師を招いて講演会をするというのが1つです。

それから、組み合わせですけれども、グループ討議との組み合わせ、あるいは、講演会との組み合わせで、新規の施設、その市町村のご自慢の施設ができた場合、そこを見学していただくというのがこれまでの例であります。

今年度の調布の演劇で不登校問題を考えるというのは、大変異色なものであります。内容的にはそれを踏まえてグループ討議をしたということですので、提示の仕方が非常に異色だったということでもございますが、そういう形だったということです。

26年度、前回の小金井のケースは、今のご説明のように、貫井北センターでNPO法人の可能性ということを議論した。ちょうど貫井北センターができ上がりました、NPO法人による運営が始まった年だということで、フレッシュな話題ということで、その施設を見学していただいて、討議をしたということが記録に残っております。

懇親会がついていまして、大体3,000円ぐらいの会費。これでも大体3,000円で立食パーティーのようなものはやっているということです。

日にちについては会場の都合もあり、11月7日土曜日午後ということで、今、押さえてあるということでもあります。

これまでの内容をごらんいただいて、こんなことができるんじや



ないかという、思いつき、ざっくりしたことで結構ですが、どなたかございますでしょうか。

こんなことをやったらどうか、あるいは、こういうテーマで話し合ったらどうかとか、こういう人を呼んだらどうかとか、何でも結構です。

富田さん。

富田委員

この間もちょっと話をさせていただいたんですが、せっかくオリンピックの年で、小金井からオリンピックの選手が出られることですので、マラソンに出られる鈴木亜由子さんでしたか、その話を聞かせていただければ。

それで、それについて、彼女が持っていた夢だとか、それに向けての努力だとかというふうなお話を聞かせていただければ。それで、それをもとにして討議もすればいいんじゃないかと私は思いましたけれども。

原田議長

ありがとうございました。

鈴木亜由子さんは日本郵政の方で小金井市民であり、オリンピック女子マラソンに出場が決まっております。

オリンピックの後ですけれども、勝ち負けには関係なく、お呼びしてお話を聞いたらどうかということです。

ほかに何かございますでしょうか。

福井さん。

福井委員

福井です。

ブロックの研修会で調布に皆さん行っていただいたと思うんですけども、一般市民の参加もあった。また後で報告しますけれども、国分寺のブロック研修会ではやはり一般市民の参加があった。

調布の場合は15名限定。調布の人数は確認しておりませんが、実際は2名の方の参加があったということで、できましたら、小金井市のブロック研修会も市報に載せて、定員10名というような参加の仕方もありかと思うんですけども、たまたま萌え木ホールというのは、前回の第5ブロックでも90名ぐらいの参加の人数がおられましたから、一般の社会教育委員としては50名弱なので、十分人が入るんですけども、プラス一般市民を入れても60名ぐ

らいかという思いもしますから、今後、一般市民まで、人数を限定しながら参加するという方法も提案されたらいいんじゃないかとは思いますが、今後、小委員会等を含めまして、いろいろ詰めていただきたいと思います。

以上です。

城委員

城です。

先ほど言われましたように2020年でオリンピックもあり、市民でもある鈴木選手がオリンピックに出られるということは、これはすごくいいチャンスじゃないかと思うので、ぜひそれを取り上げていただきたいと思いました。

原田議長

ありがとうございました。

そのほかいかがでしょうか。

諏訪委員はいろいろイベントをされているように伺っておりますが、いかがですか。

諏訪委員

オリンピックの年ですので、いいんじゃないですか。

原田議長

副議長は何かご意見ありますか。

柴田副議長

オリンピックの年はほんとうにまたとない年ですので、それにちなんだことをやるのは賛成です。

原田議長

ありがとうございました。

小堀さん、萌え木ホールという予定ですが、先ほど福井委員のご意見で一般市民の参加を可能にするということで、キャパシティ的には大丈夫ですか。あそこは何人入るんでしたっけ。100人くらい入りますか。

小堀生涯学習係長 90人ちょっとだと思います。

原田議長

90人。ということは大丈夫ですかね。

小堀生涯学習係長 先に第5ブロックの中で出欠をとって、あわせて他ブロックか

らの希望を取ります。ただし、他ブロックへの声掛けの時には場合によっては人数の調整をさせていただくこともあるということも伝えることになると思います。

他ブロックの方と希望する市民の方とどちらを優先すべきかということを考える必要もあるかと思いますが、ここ数年の第5ブロック研修会の時の参加人数等を調べたうえで、今後、調整していきたいと思います。

原田議長

ありがとうございました。

ほかに何かご意見ありますでしょうか。

では、これについては、次回以降も議論を続けるということで、できれば小委員会を開いて、もう少し具体的なたたき台をつくった上で、またこの議論にかけたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、3番目にまいります。第4次生涯学習推進計画の策定について。

事務局、お願いいたします。

小堀生涯学習係長 では、資料2、第4次生涯学習推進計画についてをごらんください。

こちらは、第3次の計画が来年度末をもって計画期間を終了いたしますので、第4次生涯学習推進計画を来年中に策定することになりますが、前回も社会教育委員の方の力をおかりして第3次生涯学習推進計画を策定させていただきましたので、第4次の計画の策定についてもよろしく願いいたします。

こちらの資料の1番のほうに、どういった進め方をしたかということで、日にちと会議の内容と、あと、どういうことについて話し合ったかということを書いています。

5年前というのは、年度途中の9月にちょうど委員の方が入れかわった時期となりますので、第6回の本会議、平成27年10月6日から新しい期になっております。そのため、今までこういう形で進めていましたということを第6回の会議の中で説明等を行いましたので、1回検討がとまったような形になりましたが、今回は同じ期の中で計画の策定を終わらせることができるという形となります。

市のほうでは、年度が明けた令和2年4月以降に計画のためのコンサルの方と契約をする予定ですが、そうになりましたら、会議にも出席してもらって意見をいただいたり、まとめていただいたりしたいと思います。

今、第2次生涯学習推進計画と第3次の生涯学習推進計画とその概要版を配らせていただきましたが、第2次のほうは、第1次の計画と似たつくりになっていますが、小金井市全体の生涯学習に関する事業について細かく書かれています。

第3次生涯学習推進計画のほうは、あまり細かく事業だけを羅列しても、何となく眺めてしまうだけになってしまうのではなかという検討がされ、重点プロジェクトというものを設け、その重点プロジェクトについては細かい記載をし、市の全体の施策については、施策一覧という形で記載しております。

第3次小金井市生涯学習推進計画の表紙のすぐ下に「学びの継承、未来の創造、学びでつなぐ人・まち・小金井」とあるんですけども、こちらは最初に計画のテーマは何にするかということで考えたものとなりますが、最終的にはこのキャッチフレーズについては計画の中の大事な部分となりますので、会の終盤でも話し合いを行いました。続いて4つの柱についてとあるんですけども、全体を4つの柱で分けて、第3次の水色の計画の21ページにあるんですけども、一番左にテーマが書いてありまして、その次に、1、学びを豊かにする環境づくり、2、学びを通じた人づくり、3、学びを生かしたまちづくり、4、学び合いのネットワークづくり。

この4つの柱を考え、そして、その下に入っている、1-1、学びに関する情報提供と相談体制の充実。この柱に付随する施策の体系というのを、前期の委員の方の中で検討していった、この中にどういう市の施策があるかということもあわせて検討していきながら、4つの柱をまとめ、施策の体系をまとめました。

それを期が変わる前の前期の方の中で確定させて、期がちょうど変わるころに、重点プロジェクトを載せたらいいのではないかという話になりまして、重点プロジェクトの項目出しを行い、内容について精査しました。

そちらが決まりましたら、12月から1月にかけてパブリックコメントを実施して、年度末までにパブリックコメントを回答し、計画の案を確認していただき、計画を策定したという流れになってお

ります。

前回、第3次のときは、本会議を9回、小委員会を4回やっておりますが、前は小委員会も、委員の皆さんに出席していただいて、みんなで考えましょうという形で進めていったんですけど、やはり細かいところは少人数で話し合ったほうが良いという考えもありますので、一応令和2年度は本会議を8回、小委員会を7回行うということで考えております。

できれば次の会議から、こちらの生涯学習推進計画について検討していきたいと思っておりますので、本日はこういった流れで、こういう計画の策定があるということを入れていただいた上で、できたら次の小委員会でどういうふうに進めていくかというのを決めさせていただいて、第8回の会議でお伝えしたいと思っております。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。

推進計画策定に関するこの流れに関して何かご質問等ございますでしょうか。

ご説明にあったとおりに、前回は途中でメンバーが交代したんですが、今回は幸いにも年度を通して同じメンバーで議論できるということでございます。

そうしますと、今日はこの流れを理解していただくということで、次回以降、また具体的な話を始めるということによろしいでしょうか。

これから1年かけて、大変なボリュームの議論になろうかと思えますけれども、よろしく願いいたします。

それでは、次に議題4、令和2年度管外視察研修について。事務局、お願いいたします。

小堀生涯学習係長 資料3、令和2年度管外視察研修についてをござんください。

こちらは、平成18年度から今年度、令和元年度までの視察研修先の一覧を載せております。

先ほどの生涯学習推進計画との絡みで、平成27年度は研修に行っておりません。計画策定があるためということで、研修はなしになりました。

令和2年度につきましては、小委員会の回数も増やしておりますし、先ほども出ましたけれども、期の委員の方の入れかえもないというところもありますので、もし研修、今までも地域学校協働活動とかコミュニティスクールのことを何年かかけていろいろ話し合いをしていったりしていますので、令和2年度も研修に行ったほうがいいのかのご意見があれば、そのあたりの話をさせていただいて、あとはどういったところに行きたいとかということ、ご希望があれば話をさせていただいて、できれば、年度が変わった4月ぐらいにはある程度このあたりに行きましょうということが決められたらと思っています。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。

この管外視察研修については、本会議が1回分それにかわるという位置づけになりますよね。

小堀生涯学習係長 はいそうです。

原田議長

それで、今、ご説明のとおり、前回の推進計画の策定の年は議論に振り向けるために研修をやめたといういきさつがありました。

次についてはまずどうしたらいいかということ、今日は議論したいと思いますが、いかがでしょうか。

どうぞ。

福井委員

福井です。

地域学校協働活動ということの実現ということで提言書を出したということで、その具体的に実際、既に都内及び各市ではいろいろ学校支援活動を含めまして、そういう活動をしている市があるということで、そういう市を対象に視察研修していけばいいんじゃないかと思っています。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。

地域学校協働活動の提言を踏まえて、今後のために既にやっている地区、さらに検証する必要があるということですね。

ほかにご意見いかがでしょうか。  
これも今日、初めての議題ですので。  
副議長は何かございますか。

柴田副議長　私も福井委員と同じで、せっかく提言書を提出しましたので、それを強化する形での研修というのがよいのではないかというふうに思います。

原田議長　ありがとうございました。  
ほかよろしいでしょうか。  
おそらく提言の強化のための視察がまた学習推進計画の内容にもかかわってくるという方向になれば、一番いい方向になろうかと思えます。

ほかになれば、これにつきましては、例年どおり視察研修をやるということで決定ということでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

では、具体的に内容については、いつごろ、どこへ、何を見に行くかというのは、一旦小委員会等で話をしまして、またたたき台を会議でお示ししたいというふうに考えております。

また、今後の、次回以降のこの会議でも議論する機会があると思いますので、こういうアイデアはどうかというのをぜひお持ち寄りいただければと思います。

それでは、次にまいります。

議題5、成年年齢引き下げに伴う成人の日記念行事について。事務局、お願いいたします。

小堀生涯学習係長　資料4の成年年齢引き下げに伴う成人の日記念行事についてと  
いうのをごらんください。

まず、経緯について資料を読ませていただきます。

平成30年6月13日に民法の成年年齢を20歳から18歳に引き下げることを内容とする民法の一部を改正する法律が成立されました。令和4年（2022年）4月から適当となります。

小金井市では、例年、その年度中に成人になる（20歳になる方）を対象として、成人の日記念行事を開催しております。

そのため、令和4年4月以降の成人の日記念行事の実施について、

対象者をどの年代の人にしたらいいかということを検討する必要があります。

今、他市の対応として、多摩地域では、はっきりと発表しているところが5市、武蔵野市、三鷹市、八王子市、町田市、国分寺市で、すべて20歳での実施ということです。名称については、変わらないというところと、今後、検討しますというところがあります。

その他、多摩地域に限らず、ホームページ等で確認した中では、民法改正後も20歳で実施すると明言している自治体は多数ありました。

そして、式典の名称を20歳のつどいといった名前に変更する予定だと発表している自治体もありました。

3番のアンケートについてなんですけれども、こちらは、本市の成人の日記念式典において、今年1月と前年の1月に行ったアンケートをまとめたものです。アンケート自体はそれ以前から行っておりましたが、今年1月と前年の1月の式典では、アンケートの中に成人式の開催時期についての内容を追加しています。

1枚めくっていただくと、令和元年度、成人の日記念行事アンケート、令和2年1月13日実施。こちらが新成人の方にお配りした記念品等の中に一緒に入れたアンケートの見本です。

このアンケートに回答をお願いしますという形になっておりまして、そのまとめが、めくっていただいて、裏面が平成30年度、1年前のまとめになります。そして、最後に令和元年度、一番直近の式典のまとめになっております。

アンケート全体の回答率と、右手にアンケートの下半分、成人式の時期についての回答をしてくださった方の人数を入れてあります。

実施時期についてのアンケート。18歳になる年度、19歳になる年度、20歳になる年度は参加しやすいか、しにくい、わからない。もしくは全く回答がなかった場合は無回答という形で人数をとっております。

黒丸の合計のところには人数と全体の率が書いてありますが、これは多少差がありますが、平成30年度も令和元年度も18歳になる年度の、一番多かったのは参加しにくい、19歳になる年度についてはわからない、20歳になる年度については参加しやすいと答えた方が一番多い結果になりました。



それぞれ3番として、実施時期についての自由意見をまとめてあります。似かよった自由意見はまとめさせていただいています。

おおむね同じようなことが書いてあるかと思いますが、3連休あるうちの真ん中の日曜日がいいという意見が何個かありました。また、18歳にするのであれば、時期をずらして行ったらいいのではないかという意見もございました。

こちらが成人式のときに行ったアンケートのまとめになります。

最初に戻っていただいて、4番、対象年齢別のメリット・デメリットのところをご覧ください。

もう少しいろいろあるかもしれないんですけども、大きなものだけ書かせていただいて、18歳になる年度に行った場合のメリットは、成人になったという意識づけができるということ。デメリットとしては、成人の日に行く場合であれば、受験の直前になる。同じ18歳になる者の夏の時期、秋の時期に開催する場合でも、学校の行事や大学の説明会、模試等に重なる可能性がある。

これは市の問題でもあるんですけども、3学年が同時に対象になる令和4年度には会場の確保や当日の運営、そして、参加する方にも混乱が生じるおそれがある。

その下に、20歳になる年度のメリットとしては、受験や就職の時期に重なることを避けて、より多くの方が式典に参加しやすい。

そして、デメリットとしては、成人になったという意識づけが多少低くなるのではないかということ。ただし、喫煙、飲酒年齢等、20歳を維持されたものも民法改正の中にありますので、1ページめくっていただいて、成年年齢の引き下げに伴う年齢要件の変更についてということで、今まで20歳だったものが18歳に変わるものだったり、20歳が維持されたものというのがありますので、こちらを参考にご覧いただければと思います。

本日は、こちらの社会教育委員の会議として、こうしたほうがいいのではないかという結論を出していただきたいということではなくて、社会教育委員の方には成人式にも参加していただき、また、いろいろお手伝いをしていただいたりというところもありますので、社会教育委員の方々が成人式の実施時期についてどのように考えるかというご意見をいただきたいと思います。

以上です。

原田議長            ありがとうございます。  
                          城委員は毎年お花を生けてくださって、成人式にはご尽力いただいて、いかがでしょうか。

城委員                私もこれは考えてきまして、やはり20歳のときが一番皆さんが出やすいのではないかと。やはり18歳では受験とかに重なりますので、また、20歳になったときのほうがはっきり覚えているというか、成人の、名前は変わっても構わないと思うんですけども、例えば成人のつどいとか、20歳のつどいとか、名前は変えてもいいんですけども、やはり20歳のときにしたほうが一番いいのではないかと思います。

原田議長            ありがとうございます。  
                          富田委員は今年参加されました。

富田委員            はい、出てきました。  
                          私自身は初めての成人式への参加となったのですが、私は成人式って必要なのかといまだに思っているんです。  
                          成人式は必要あるのか、成人式の意義は何なのかと私はいつも思うんです。  
                          だから、反対に成人式を取りやめるという案もあってもいいんじゃないのかと私は思うんですが。  
                          私の意見です。

原田議長            これは、事務局、取りやめるという選択肢はないのでしょうか。

関生涯学習課長    この場で何かを決めるということではございません。今、状況を事務局から説明申し上げた中での皆様のご意見なので、選択肢は無限というか、委員おっしゃった、なくてもいいんじゃないかというのは、もちろんそういう考えはあるかと思います。

                          そうしますと、この成人式自体は特に法律だとか条令だとかに基づいて決められているものではないので、ただ、やっていない市はないというところで、では、今後、やめようかという市はもしかしたら出ないともいえないのかもしれないですが、やはりずっと文化として根づいてきている部分があると思いますので、もちろんそれ

は今、ご意見としては受けとめたいと思います。そのやめるということに関してです。

城委員

私は出席していて、また、子どもが成人式の日に行って、たくさん友達といろいろ会ったり、いろいろなことがあって、やはり成人式に行ったということはすごく思い出になっているし、そのときにいただいた記念品はいまだにあるんですけども、やはり一生のうちでとても大切な記念式典だと私は思うんです。

ですから、小金井市がなくなったら、いや、ほかの市に行きたいと思うくらいなので、なくしてほしいと思いました。

原田議長

ほかに。福井さん。

福井委員

福井です。

この報告書の資料4の他市の対応というところで、多摩地域の5市も20歳で式典をやるというのがあるのと、全国レベルでいっても、まだちょうど振りかえのときなんですけれども、すぐ18歳からやるという行事は少ないんじゃないかと思います。

10年たてば、18歳の式典が全国的なレベルでなれば、当然追従せざるを得ないと思うんですけれども、アンケートもありますように、18歳よりも20歳のほうが参加しやすいというアンケートの結果があるということで、当面20歳からの、名称はいろいろあるみたいなんですけれども、20歳のつどいというような式典をやはりやるべきだと思います。

それと、もう1点、当然2022年度年4月から適用ということで、2023年1月の成人式が従来どおり20歳のつどいで開催されると思うんですけれども、その年に該当する18歳の方に対して、やはり成人になったという意識づけを小金井市としては発信すべきだと思います。

ですから、簡単なリーフレットでいいと思うんですけれども、18歳の対象の小金井市民の方に対して、成人おめでとう、こういうのが成人の心構えですというようなリーフレットは2023年1月の開催の式典のときの該当する18歳の方に差し上げてもいいかという思いです。

以上です。

原田議長            ありがとうございました。  
                          どうぞ。

諏訪委員            1つ質問ですが、小金井市の場合は成人の日は、今までというのは対象はその年ですか。それとも、前年になっている人なんですか。

小堀生涯学習係長  当該年度に20歳になる方です。その中にはなった人もいるとは思うんですけども、1月に開催します。今年で言うと、平成31年の4月2日から令和2年の4月1日の20歳になる方を対象にしています。

諏訪委員            そうすると、お祝いのおきにまだ19歳の人も入っているわけですね。

小堀生涯学習係長  いらっしゃいます。

諏訪委員            だから、そういう意味なんですか。この2番の、19歳になる年度の成人の日というのは、18か20歳かという選択はわかるんですが、19というのは何でだということになりませんか。

原田議長            これは自治体によって、満20歳の人しか呼ばないというところもあるんですか。式典の前日までに。

小堀生涯学習係長  時期が夏の時期だったりする自治体もありますが、満年齢という考えではないのではないかと思います。

富田委員            いいですか。

                          昔は満年齢でやっていたと思うんです。だから、私、なぜ行かなかったのかって、私、3月生まれなものですから、3月に行くと仲間いないのですから、それで行かなかったということもあるんです。

                          ところが、今年、出させてもらったときに、4月1日までになったんです。それで、あれと思いました。それは市で決めているんですよね。

小堀生涯学習係長　そうです。

富田委員　　そうですよね。それは昔からそうなんですか。途中で変わったんですか。

小堀生涯学習係長　ちょっと年齢が違うので参考にはならないかもしれませんが、私は自分自身が小金井市で成人を迎えましたが、その時も年度中に20歳になる年が対象になっていて、同じ学年の人たちは同じ年に参加していたと思いますので、そのころから小金井市はこういうやり方をしていたと思うんですけれども。

富田委員　　ああ、そうなんですか。

関生涯学習課長　済みません、ちょっと補足で、アンケートで18歳になる年度、19歳の年度、20歳の年度と聞き方をしているのが、これは民法改正直後が、もし18歳というふうにやるとなると、その3学年、18、19、20を一遍にやらなければいけないということもあるので、もし18歳で小金井市はやりますと決定したら、令和4年度の式典はこの3つの世代を一遍にやらなければいけないということもあるので。

だから、それ以降は18歳だけになるんですけれども。ということもあるので、こういう書き方をさせたんだということです。

それと、あと、満年齢なのかどうかというのは、済みません、おそらくその年度でだと思います。私の記憶でもやはり年度での20歳になる人が対象というのは、多分他市もそうなんじゃないかとは思いますが。

ただ、さらにそれ以前というのは、ごめんなさい、認識がないのですが。むしろ以前は満年齢だったということでしょうか。

原田議長　　今のお話は、仮に18歳に切りかえるとしても、漏れの出る年度がないように、3年度分ということですね。

関生涯学習課長　そうです。

原田議長　　もしそうなら、会場の確保ってそういうことなんですね。一遍

にやらないといけないとなると、今でも2部制を敷いていて、それが3世代というか、18、19、20、これをさらにやらなければいけないということになると、会場の確保、費用の問題というのは、これは小金井市だけの話じゃなくて、他市もやはりその辺のハード面の確保というのは課題に挙げているところがあります。

所先生は、教育現場のお立場から、この成人の日の年齢は何かご意見ありますか。

所委員           やはり子どもたちのことを考えると、受験とか就職に重ならないように配慮するということはすごく大事なことからいうふうに思います。

アンケートの結果にもそれがはっきりと出ていますので、運営上のことも考えるんですけども、第一にはこの年代の事情というのをよく考慮していくことが大切か。結論から言うと、20歳の年度にやるのがいいかと思います。

原田議長           ありがとうございました。  
何かございますか。よろしいですか。

森本委員           私は、18歳でというのは、所先生がおっしゃったように、やはり子どもたちにとっては、これこそまた違う意味での人生を決める日と重なってくる、これは避けたいと思います。

それから、もし18、19、20という年齢ですとしますと、それは実際に20歳になる人にとってどうだろうか、18歳になる人にとってどうだろうかと考えますと、やはり18歳というのは、アンケートにもございましたように、無理だということ。

それから、もう1つ人生にとってお誕生日や、結婚式などの記念日は、先ほど富田先生、必要かとおっしゃったけれども、私は絶対に必要だと思います。ところは反対させていただきます。皆さんが祝福できる、楽しめるということを考えて、20歳ということに賛成させていただきます。

柴田委員           私も20歳での開催に賛成です。アンケートの回答結果でもやはり20歳のときが参加しやすいというふうに当事者が認識しているようですし、また、保護者の目線から見ても、18歳となると、

進学費用、それから、振袖費用など、家計負担ということも考えますと、やはり20歳のほうがいいのではないかと思います。

ただ、18歳になるという、民法の改正というところに伴いまして、先ほど福井委員がおっしゃったように、教育委員から18歳の市民の方を応援するというようなメッセージを出すとともに、その18歳になって伴う責任であるとか、それから、生き方というんですか、そういうことを示すようなメッセージを何か発信するということは必要なのではないかというふうに思います。

原田議長            ありがとうございます。  
                          どうぞ。

諏訪委員            いいですか。  
                          子どもたちは、これはどう受けとめていられるんですか。多分よくご存じかと思うんですが、18歳になったということで、そこで成人になったと思っているんですか。それとも、制限が幾つかありますよね。だから、20歳にならないと、ほんとうの成人になっていないと思う。子どもたちはどっちを思っているんですか。

所委員               それは子どもたちによりけりかとは思いますが、やはり式典で皆さんからお祝いされるということで自覚も増しますし、責任感も持つようになると思います。  
                          やはり家族がどのようにその子に接しているかというのも影響するとは思いますが、それは個々、それぞれかという気はします。

諏訪委員            私見ですけれども、子どもたちが、僕ら、私たちは大人になったと思う年にやってあげるべきだと思うんです。  
                          ただ、逆に、こういうことをやるからそういうことを意識するということもあるのかもしれないですけれども、我々からすれば、20歳にならないと、ほんとうの大人になったとは言えないんじゃないかと思うんですが、その辺は子どもたち次第じゃないかと思いません。

原田議長            ありがとうございます。  
                          いろいろなお意見が出ました。ぜひ参考にさせていただいて、今後

の検討をお願いしたいと思います。

それでは、議題6、その他。これは何かございますか。

小堀生涯学習係長 ありません。

原田議長 それでは、2の報告に移ります。

まず、第50回関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会についてということで、福井さんに報告の書類をそれぞれつくっていただいていますので、これをごらんください。

福井さん、お願いいたします。

福井委員 福井です。

お手元の報告書、資料を見ていただきたいと思います。

2019年11月7日、埼玉大会は川越市で開催されました。

基調講演がありまして、演題は「学びがひらく 豊かな人生」ということで、内容的なポイントを言いますと、人生100年時代において、いつでも学び直しができるというような内容を強調されました。

その後、シンポジウムということで、「あなたはどう生きる 人生100年時代！」ということで、20歳から50歳代の4人のシンポジストが皆さんいろいろ意見を出されました。

内容的には、下の3点ほどなんですけれども、余生は心の豊かさを保持して人生を送りたい。また、埼玉県内の55歳以上の方は、県内に21大学の大学があるそうなんですけれども、一緒に学生と学び直しができるような交流ということを実践しているというのがポイントでした。

裏に行きまして、2019年11月8日、分科会に出席しまして、事例研究としては、「人生100年時代における社会教育の実践」ということで、2つの事例発表がありました。

1つは、浦安市のほうのサークル団体なんですけれども、老人福祉センターに行って出前講座をやっている。内容としては、子どものころの回想をすることで、そのセンターに入居されている方の脳の活性化に結びつき、認知症予防になるという事例発表でした。

もう1つは、NPO法人のまちと学校のみらいということで、横浜市の高校生が発表されました。



主体としては、中高生が主体になり、地域住民の協力を得て、まちの活性化事業ということで、いろいろ視点があるんですけども、産直ということにポイントを置かれて、販売業務をしながらまちの活性化を推進しようということで、高校生ということで、非常にめずらしいケースだと思うんですけども、高校の校舎を利用して中学生が集まる。

その中高生が主体になって、逆に大人のほうがサポートするというような仕掛けで活動しているという事例発表で、今後、そういう人生100年時代において、中高生が主体になり、また、中高生が卒業したら、その中高生のサークルに対して、OBという立場じゃなくて、一般市民的な立場で協力していこうということで、非常に幅広い活動を目指しているということです。

今回は、新潟を今年の11月12、13日で、このスローガンに基づいてやるということと、内容です。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。

この大会は森本委員も参加されましたね。

森本委員

はい。

原田議長

何かご感想ありますでしょうか。

森本委員

今、全体のお話につきまして、福井さんがおっしゃって、皆さんに伝わったかと思っております。

分科会がその後、ございました。そのテーブルで六、七人でしたか、それぞれのグループになってお話をしました。

そして、参加者はできるだけ違う地域の人ということで分けられて、関東甲信越、静岡県の方と一緒に。ともかく広域の皆様方の集まりでしたので、いろいろなさっていることが地域によって随分違うものだと感じました。

それから、私が小金井市でしていることとかを申し上げますと、私も感じたように、ほかの方もやはり地域差をととても感じたようです。それぞれの地域によって、その活動の内容がそれぞれ考えられ、生かしていけるように考えていらっしゃるということを改めて感

じました。

原田議長

ありがとうございました。

何かご質問ありますでしょうか。

では、よろしければ、次の2番、令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロックの研修会。続いて、福井さん、お願いいたします。

福井委員

では、第5ブロックの研修会、福井から説明します。

令和元年11月24日、調布市で開催されました。

小金井市では参加者は委員が6名、職員2名の8名が参加しました。

参加者は約50名。こちらの50名の方は社会教育委員と各市の一般職員。正確に言いますと、46名です。

また、一般市民、演劇関係者、または、ほかのブロックの社会教育委員が参加されました。正確には42名が参加されまして、合計約88名ということで、小金井市も今期、萌え木ホールで開催する場合は50名、プラス一般市民も可能かというような感じで、先ほど提案しました。

開会式に続いて、我々、1番目に演劇、「トシドン」の放課後」というテーマで演劇を見ました。内容的には、特別教室に通う2人の高校生が互いに成長していくという演劇を見たということで、その後、ディスカッションがありました。

各市の代表の方が感想を述べられまして、ポイントとしては、不登校問題は支援機関の居場所というのが非常に重要じゃないかというような内容が注目すべき点だったと思います。

あと、先ほど参加の一般市民に関して、参加されたということで、私、調布市の市報をいただいてきました。これが調布市の11月15日号の市報で、ここに囲っていますところ、一般市民に市報で参加されてはどうでしょうかということで、定員15名の申し込み、無料ということで、第1部の演劇を中心に参加されたということで、こういうことを市報に載せたということで、一応この資料を事務局のほうに後でお渡ししておきますけれども、参考にさせていただければと思います。

以上です。

原田議長                    ありがとうございます。  
                                  この研修会に参加された皆さんでほかにご感想はありますでしょうか。  
                                  富田委員、いかがでしょうか。

富田委員                    なかなかおもしろい発表の仕方だと私は思いました。小金井ではなかなか難しいやり方かもしれませんが、こういうふうなやり方があってもいいんじゃないのか。  
                                  ただ、中でボランティアの方がこれだけの演劇をされるというのは、やはりすばらしいことだ。もちろん出られた方は大学で演劇をされていたセミアマチュアの方なんだけれども、中で表情がどんどん変わっていくんです。  
                                  最初は何か暗いんだけど、最後になると、どんどん変わってくる。これは何でか。相手を思いやる気持ちが出てきたからなんだろうと思ったんです。これはごらんにならなかった方はちょっと残念だったと思います。  
                                  ほんとうに私はあれに参加できてよかったと思えました。  
                                  以上、感想です。

原田議長                    ありがとうございます。  
                                  森本さん、いかがですか。

森本委員                    5つの地区で発表があり、私どもの第5ブロックのこの「トシドンの放課後」という富田様がおっしゃった演劇は、大変インパクトがありました。不登校について、自己肯定感について、居場所についてというのが演劇の中でずっと伝わってくるものがありました。最後に、これは子どもたちの前でとか、もっとどこかで活用できる演劇ではないかと感じました。最後に私は、この演劇をこの場だけでどこにも出さないのは、もったいないという気持ちだし、何か使い方があるのかしらと思ったぐらいでした。

原田議長                    ありがとうございます。  
                                  城さんも参加されましたけれども、いかがでしたか。

城委員

私も市民の参加というのに、演技があまりにも上手だったので、プロの人の演技を見ている感じで、インパクトがあり、居場所づくりというのが大切だということのをすごく感じるほど演劇がうまかったので、私も森本さんと一緒に、このままここだけで終わるのはもったいないと思いました。ほんとうにいいお芝居を見せていただいたと思いました。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。

懇親会にもあの俳優さんたちが参加されて、泣きながら感想を述べる方もいらっしゃって、この演劇の取り組みが出演者の若者たちの成長の場にもなったような感じがして、懇親会も含めて感動いたしました。

ありがとうございました。

では、次へまいります。

3番、同じく、令和元年度の東京都市町村連絡協議会。これは、今年度から他ブロックにも参加できるようになったということで、福井さんが精力的に出दैたいて、そのご報告をお願いいたします。

福井委員

第4ブロック、2019年10月7日、清瀬市で開催されました。

講演としまして、テーマ「学校が変わる 地域が変わる 地域学校協働推進」ということで、講師は福田さん、元杉並区立和田及び天沼小学校長を歴任された方です。

ポイントとしまして、学校の運営は地域の連携が非常に重要じゃないかという点と、もう1点、多様な学校教育の実現などを通して地域課題の解決をということで、多様性という言葉は何回もこの講演時間で言われました。

それで、多様性という言葉は最近、皆さんも各報道機関の新聞等で非常に見られると思うんですけども、内容的にはいろいろな見方があるんですけども、多様な人々とともに暮らすというところがあるんですけども、皆さんで今後、我々の第5ブロックのテーマもあるんですけども、多様性というつながりの提案の考え方も1つ提起できるんじゃないかと思います。

その後、事例発表として、清瀬市の学校支援本部と小平市の学校

支援本部の方が発表されました。

1つ目の斎藤さんという方は、清瀬市の社会教育委員であり、清瀬市全市の小中学校の統括コーディネーターという方で、非常に精力的に発表されたということです。

ポイントとしては、地域の力で清瀬市の教育をつないでいこうという内容でした。

2番目の事例としては、季高一成さん、この方は職員の方で、小平市の教育委員の地域学習支援課の課長の方だったんですけども、小平市は19小学校、8中学校あるんですけども、全て学校支援本部の体制が確立しているということで、非常に積極的に小平市は取り組んでいるという印象がありました。

全体的なまとめとしましては、学校支援本部は全世代とさまざまな分野での生涯学習のつながりに結びついている、担っているというようなところが共通項目としてあり、小金井市としては非常に参考とする管外研修の対象の地域であり、清瀬市、小平市も研修先の候補の1つであろうという思いがしました。

以上です。

原田議長

では、第2グループのほうもあわせてお願いします。

福井委員

令和元年10月26日、国分寺市で開催されました。

テーマは、「人と人がつながり、学び循環するまちの実現を目指して」ということで、郷土愛を育むということです。

活動報告としまして、国分寺市の社会教育委員が平成30年度に調査研究した成果を発表されました。

ポイントとしては、子どもの活動拠点として、社会教育施設の有効活用を協議したというのが1点目。

2点目としては、学校と地域が協力して、古代米、赤米です。この赤米というのは、中国地方、九州地方しか日本ではもう栽培されていないという実績だったんですけども、小平にこの種があったということで、農家の人が協力されて、栽培され、一部の小学校等に給食として活用されたという事例発表です。

グループワークとしては、この活動報告に基づいて、グループ討議をしました。赤米の栽培は小平市の農家の人の協力があるにもかかわらず、一般市民の方が、小平市の方なんですけれども、まだ認

知が低いんじゃないかということで、積極的に小平市の市民に広報活動をするのも重要じゃないかという提言をいただいたのと、郷土愛を育む取り組みとしては、やはり次世代リーダーの方の協力も必要だということで、そちらのほうの育成を目指さなきゃいけないんじゃないかという意見があったということで、報告しておきます。以上です。

原田議長

ありがとうございました。

ただいまの報告について何かご質問ございましたらどうぞ。

1つ私から質問です。

グループワークの際は、他ブロックの参加者は参加できるんですか。

福井委員

そうです。

原田議長

どこのブロックでも。

福井委員

こちらのほうは、市外のブロックから参加したのは小金井市の福井のみで、ほかの市外の方の参加は、私が見た限りおられなかったんですけれども、やはり一般市民が2名参加されました。

やはりこちらのほうも市報で募集したのではないかと個人的に思うんですけれども、他ブロック、一般市民含めて3名の方が参加されていました。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。

それでは、4番です。資料8をごらんください。東京都の市町村連絡協議会の交流大会。これも福井さん、お願いいたします。

福井委員

令和元年12月14日、三鷹市で開催されました。小金井市の方は委員で6名、プラス職員の方が2名で8名が参加しました。

各来賓者のご挨拶があったんですけれども、ここに記載してありますけれども、学びにて地域を活性化しようというのと、社会教育を基盤にして子どもの育成の地域づくり、それと、やはり地域活動をする人材の育成の地域づくりということで、学びを通じた地域づく

りが必要じゃないかというのと、三鷹市は、生涯学習課は首長部局のスポーツと文化部に所属しているということで、生涯学習部というポジションではなくて、三鷹市はスポーツと文化部に首長部局として組織だっているというところがポイントだったということです。

交流会としまして、各ブロックの研修会、実施報告がされました。参加された方及び委員の方には資料はいったと思うんですけども、この参加された方は交流大会の小雑誌、皆さんお手元に当日いただいた報告の第1ブロックから第5ブロックまでの報告書が詳細に書かれていますから、見ていただければご理解できると思います。

引き続いて、2番の講演がありまして、能楽師の青木さんからいろいろ能に関することのご説明をいただきました。テーマは「日本の伝統文化 能を楽しむ」ということで、「舞を見て 謡を体験しよう」ということで、羽衣という演目で、謡の体験、解説、あと、実演等を見て、鑑賞したというのが2番目の講演会で、ご本人の青木さんは吉祥寺において、PTA、コミセン、青少年健全育成などの委員として社会教育活動をしているというご報告もありました。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。

参加された諏訪委員から何かご感想ありましたらお願いいたします。

諏訪委員

先ほどの調布のあれをたしかスライドというか、ビデオか何かで、あれが非常に印象的だったんですが、ただ、あれは全部だったんですか。多分一部ですよ。

原田議長

いや、ごく一部です。

諏訪委員

ですよ。だから、あれを見て、これは全部を見たかったとは思ったのが正直なところですよ。

原田議長

ほかに参加された方でご感想ありますか。よろしいでしょうか。それでは、次へまいります。5番、東京2020オリンピック聖

火リレーについて。これは課長から。

関生涯学習課長 生涯学習課長です。

それでは、東京2020オリンピック聖火リレーについて報告します。資料をごらんください。

まず、リレーの実施期間です。聖火リレーは2020年3月26日に福島県ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジをスタートした後、121日間をかけて日本全国をめぐり、7月24日に都庁前でゴールします。

東京都における実施期間は2020年7月10日金曜日から7月24日の金曜日であり、小金井市は7月15日水曜日の実施となります。

時間帯については、組織委員会から正式に示されておりませんが、午後を想定しております。

当日の通過の順番は資料のとおりで、小金井市は4番目となります。

続いて、市内の走行ルートですが、出発地点を栗山公園としておりまして、以降、東大通り、東小金井駅、梶野通り、北大通り、小金井街道、武蔵小金井駅南口ロータリーを経て、到着地を武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発区域内の、今、工事がどんどん進んでいるところがございます。その武蔵小金井駅南口コミュニティ広場2号としております。

詳細は図をもとにごらんいただきたいと思います。

あわせて、聖火リレールートを考案するに当たっての考えの概略を口頭でお話しさせていただきたいと思います。

聖火リレーにつきましては、ランナー並びに大型車両や先頭バイク、警察車両、消防車両、広報車などの車両隊により編成された全長約260メートルに及ぶキャラバン隊が市内を走行することとなりますので、まずは安全に実施できる道路条件をクリアできることが最優先事項であります。

その上で、ルート設定のコンセプトを申し上げますと、1つ目は、今、申し上げたとおり、安全安心が確保できること。2つ目として、市内の幅広いエリアであること。3つ目として、多くの市民が共有できること。そして、最後に小金井の魅力を発信できること。

以上を根本的な考えのもと、ルートを選定しました。



補足しますと、前回の1964年の東京オリンピックのときの聖火リレーのコースが小金井街道を北から南へ走るルートであったことから、今大会は街並みの整備が進んだ東小金井駅周辺を出発地点とし、東西のコースを意識したルートとしました。

走行ルートにつきまして、これまでのほか、小金井としての考えを示しながら、東京都聖火リレー実行委員会において、警視庁、道路事業者、交通事業所など、関係機関と調整の上、小金井市のルートが決定され、昨年、令和元年12月17日には、全国の走行ルートが公表されたところです。

最後に、ミニセレブレーションについて簡単にご説明いたします。

ミニセレブレーションは、聖火ルート管内の自由なタイミングで行われるセレモニーであり、本市においてはゴール地点での実施を計画しております。日時や場所などは資料のとおりでございます。

以上が聖火リレー当日の概要でございます。

聖火リレーにつきましては、多くのボランティアの方のご協力もいただきながら、当日、運営することとなり、また、広範囲にわたる交通規制のもと実施することになることから、ボランティアの確保及びコース沿道住民や事業所などへの説明など、今後、東京都とも連携し、かつ、関係機関とも調整させていただきながら、当日は安全に数多くの市民が共感できるように、これからいろいろ準備を進めてまいりたいと思います。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。

何かご質問等ありますでしょうか。

諏訪委員

聖火リレーはつながらないんですか。

関生涯学習課長

市と市の間、いわゆるトーチキスというのは、今回はないんです。

諏訪委員

ないんですか。

関生涯学習課長

はい。今回は、市と市の間というのは、そういうトーチキスがなくて、西東京市のゴール地点から東京都の方が火を持ってきて、栗

山公園からスタートして、リレーするという形になります。

諏訪委員           それではリレーにならないですね。

関生涯学習課長   火はつながっているということですので。

原田議長           その間というのは自動車で運ぶんですか。

関生涯学習課長   東京都の方が運ぶというので。小金井市の次は府中市になるので、ゴール地点から火を、府中市のスタート地点に運ぶ。だから、火は絶えずついてはいるということですよ。

原田議長           飛行機で運ぶところもあるんでしょうね。それと同じ考え。ほかによろしいでしょうか。

藤本生涯学習部長   ちなみにこれは、64年のときが全部一筆書きになっていて、うちの多摩地区のほうも一部の市しか通らないということになったんですけども、2020大会については各区市町村を通るということにしたので、やはり距離が割り当てられて、どうしても一筆書きにはならない。

そのかわり、各市で特色を生かしたようなコースを設定することで、小金井はこういうコースなんですけれども、今、ホームページでは、各市の全体の、それぞれの市の特色を生かしたコースが出ていますので、ぜひそちらを参考に見ていただければと思います。

原田議長           ほかにご質問は。富田委員。

富田委員           リレーは何人ぐらいで走られるんですか。聖火ランナー。

関生涯学習課長   ランナーですか。人数。まだ人数は公表にはなっていないので、ただ1人当たり200メートルというのは公表されています。何となくその辺で人数はご推察いただければと思います。

原田議長           ありがとうございました。

それでは、次へまいります。その他の項目で、まず、青少年のための科学の祭典。これのご報告。これも福井さんに資料をつくっていただきました。お願いいたします。

福井委員

福井です。

青少年のための科学の祭典、2019年9月22日、東京学芸大学で開催されました。

参加団体は94団体で、参加者、一般市民、約1万名の参加があったということで聞いております。

我々、社会教育委員のメンバーが4人、ブースを協力して、展示ブースのご案内をしたということです。

あと、一緒にやったのが公運審の委員の方が同じ部屋でやったということで、図書館協議委員会の方は参加できなかったということで、2チームの審議会の委員の方で協力しながらお子様を指導したという内容です。

テーマは、お手元を書いてあるとおり、「模様が変わる不思議なカライドサイクル」ということで、一般的に万華鏡というようなものを子ども中心に手づくり作品というような内容で、年齢的には3歳、10歳、または、一般のフリーの大人の方も自由に参加されました。

中心的にはやはり5歳から10歳ぐらいの小学生がおもしろおかしく利用されたということで、私が写しました写真等がここにございまして、非常に、5歳児が、テーブルにあふれんばかりお子様が参加されたということで、この写真は後で事務局のほうに渡しておきますから、また見ていただきたいと思います。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。

事務局長をお務めになった森本委員はいかがでしょう。

森本委員

ありがとうございます。

科学の祭典は今年で14回目になりました。

ここに報告書がございしますが、報告書に載っておりますとおり、開催の趣意といいますのは、1枚目にございます。最初は、私どものソロプチミストの記念行事としてスタートしました滝川先生のサイエンスライブショーが公会堂がなくなりましたので、科学の祭

典のブース方式になりました。場所を最初に工業高校、それから、学芸大学にお願いして、13回学芸大学でやってきております。

そういう中で、最初は大人が全てしてきておりました開会式の運営などへの参加も、青少年がやる方がいいのではないかと考え、司会から始まり、演奏や、テープカットなども任せました。福井さんがおっしゃったように、こちらの社会教育委員の皆様も出席していただいております。生徒たちがこういう科学に興味を持って、そして、いろいろな場面で自分というものを発揮できる場所、それから、こういうところに参加した親子たちが、こんなおもしろいことがあるとか、今年のノーベル賞の方もそうでしたけれども、小さいころ、ローソクに関する本を読んで、それがノーベル賞につながったと知ると、この祭典が子どもたちに大きな夢を持つきっかけになればと、子どもたちの祭典としてずっとやってきております。

どうぞこれからもよろしく願いいたします。

原田議長

ありがとうございました。

配られた報告書の12ページ、61番が私どものカライドサイクル、こんなものをつくったわけですね。

私は最初に見て、これは単なる紙細工かと思ったけれども、実はこの平らな紙をある折り方で折ると、このように立体になって、しかもくるくる回るといのは、聞きましたら、数学的にとても難しい問題なんだそうです。

子どもたちも喜んでつくっているんですけども、中にはどうしてこうなるんだろうという疑問を持つ子どもがいる。それが未来にノーベル賞学者になるかもしれない。そういう意味で、大変科学的なおもちゃなんだそうでございます。どうしてだかよくわかりませんけれども。

以上でございます。

それでは、その他の報告事項はありますか。

関生涯学習課長 では、先日の成人式の記念行事につきまして、資料はないんですけども、口頭で報告させていただきたいと思っております。

令和2年1月13日にした成人式につきましては、今年度も2部制をとりまして、第1部は午前11時から中央線北側のエリア、第一中学校区及び緑中学校を対象として実施し、第2部は中央線南側

エリア、第二中学校区、東中学校区、南中学校を対象として午後1時15分から、小金井宮地楽器ホールで開催しました。

今回は、平成11月4月2日から平成12年4月1日に生まれた方が対象となるということです。参加された方は第1部は361人、第2部も、偶然なんですけど、同じ数字で361人でありまして、計722人の方に参加いただきました。

そのうち市外から参加された方が65名ということです。

参加率は54.6%でございました。ちなみに昨年が53.3%だったので、今年度は若干多かったかというところです。

成人式の実施に当たりましては、小金井市スカウト協議会、国際ソロプチミスト東京小金井、小金井市文化連盟華道部、小金井警察署及び小金井警察署管内交通安全協会、小金井市登録手話通訳者連絡会、小金井囃子保存会の方々のご協力をいただき、また、成人の日記念行事実行委員会、本年度は4名なんですけれども、4名の方々に事前準備も含めてご活躍いただき、いろいろなの方々のご協力をいただきまして、また、社会教育委員の方もはじめ、多くの方の来賓の方もご参加いただけまして、無事に式を挙行したことをご報告いたします。

どうも皆様、ありがとうございました。

原田議長

ありがとうございました。

記念行事に参加された委員の皆さん方で何かご感想とかをお持ちの方はいらっしゃいますか。どうぞ。

城委員

城です。

女性の方はほとんどが振袖だったんです。ああ、このときはいいなと思うんですけども、ショールを始まる前には、それはコートがわりなので、外してくださいということはあるんですけども、式典が始まって、たくさんの方がショールをしていらっしゃるんです。

せっかくだから、もう一度始まったときに皆さんに言うといいのかと、毎回感じているんです。

というのが、せっかくそこに参加して、振袖着て、多分親御さんもお存じない方が多いと思うんです。ショールというのは外套がわりだということを。そこに出席してそれを聞くだけでも私はいいか

と、今後、着物を着ることが何かの、お茶の会とかいろいろなところであると思うんです。

そうすると、そういうことを全然知らないよりは、せっかくおっしゃっているんだったら、会が始まって、たくさんの方がショールをしていらっしゃるんだったら、言ってほしいとずっと思っておりましたので、ぜひ来年度はそのことも伝えてほしいというのをすごく思いました。

富田委員 ショールを外してくださいというアナウンスはありましたよね。

城委員 アナウンスは会が始まる前におっしゃるんです。私もすごく気にしているから、聞いているんですけど、会が始まると、そのことは一言も触れられないんです。

ですから、そこは全員がいるところで1回おっしゃったらいいとすごく感じたので。

原田議長 これについては、では、実施部局として受けとめていただいて、来年以降、ご検討をお願いします。

関生涯学習課長 そうですね。会が始まる直前ぐらいに実行委員の方に言っているかとは思いますが、城委員のおっしゃったとおり、たしかやっている最中ではないのかと思います。

そのセリフのタイミングもありますので、また検討はしてみたいと思います。ありがとうございます。

城委員 お願いします。

富田委員 私は前半、後半、両方出させていただいたんですが、前半はかなり皆さんおとなしくて、なるほど、さすが小金井だと思ったんですが、後半になると、ちょっと茶々を入れる新成人の方がおられまして。特に皆さん、座席が決まっているんだけど、その茶々を入れていた新成人の方は自分の席に座っていなかったような感じがするんです。

やはりその辺は、しっかりルールを決めているんだから、それはルールどおりにのっとっていただくように持っていってもらいた

いし、指導していく人が必要じゃないのかと私は思いました。

それで、やはり何かあると、ほかの人が不愉快な思いをするので、やはり不愉快な思いをするような、これは式典なものですから、せめて式典の部分はしっかりとしたような形に持って行っていただきたいと私は思います。

原田議長           では、担当部局でご検討をお願いします。他の報告はありますか。

小堀生涯学習係長    次回の会議についてですが、2月17日、9時半から、場所が801会議室ではなくて、前原暫定のB会議室になります。よろしくお願いたします。

原田議長            B会議室というのは1階、2階、どちらですか。

小堀生涯学習係長    2階です。

原田議長            2階のほうですね。2月17日の9時半から、前原暫定の2階のBということです。  
それでは、どうもお疲れさまでした。